様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３４５３４
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１５８９６

研究課題名（和文）外国人旅行者を対象にした災害発生時における看護支援活動モデルの構築

研究課題名（英文）The development a disaster nursing care model for foreign tourists, when a disaster strikes in Japan.

研究代表者
安達　和美（Adachi, Kazumi）

姫路大学・看護学部・教授

研究者番号：７０２８０１０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「外国人旅行者を対象とした災害発生時における看護支援活動モデルの構築」について、テーマに関わる文献検討、東京都と兵庫県の宿泊施設に外国人旅行者への災害備え意識・行動へのアンケート紙調査及び、外国人旅行者の災害への備え意識・行動に関するインタビュー調査を実施し、看護専門職として災害時看護支援活動モデルとして社会に提示することに取り組んだ。これらの取り組みを災害看護支援にむけて考究し、外国人旅行者の災害リスク、外国人旅行者の特性・災害へのニーズ、そして、看護専門職としての看護支援及び、連携機関との協働による自助、共助、公助として災害サイクルに即したモデルの構築を生み出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　看護の側面から外国人旅行者の健康・生活、安全・安心に関して災害時看護支援について、3年間に亘り調査研究に取り組み、看護支援のモデルを図った。本モデルを具現化・実践化による学術的意義は、外国人旅行者を対象とした災害看護研究が見られない中で、看護専門職の活動、役割として社会に提示した意義は大きい。また、外国人旅行者の対応として健康や生活、医療、文化的ニーズに関して専門職として宿泊施設と連携できる基盤を創造した。さらに、外国人旅行者の災害リスクの特徴や外国人旅行者の特性・災害へのニーズを明確にできたことで災害時の支援として自助、共助、公助により連携して取り組むことの重要性を社会に提示できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to development a disaster nursing care model for foreign tourists, when a disaster strikes in Japan. There were three parts of academic works for this theme which included a literature review, a survey (1,608questionnaires, self-administrated and response rate was 17.7%) of disaster preparedness needs of accommodation facilities for foreign tourists throughout Tokyo metropolitan and Hyogo prefecture, and exploration of enforcing a disaster preparedness awareness program with actions for foreign tourists using a interview survey (50 tourists- Korean, Chinese Australian etc.). The results of investigation revealed that are three important prerequisites. These include the risk of foreign tourists being involved in a disaster while visiting Japan, the preparation needs of facilities which house visitors during a disaster and establishing a corroborative program from the professional nursing point of view based on self-help, community, and public.

研究分野：災害看護、グローバルヘルスケア

キーワード：外国人旅行者の特性　災害時対応　災害支援モデル構築　災害への備え　多様な文化　自助　共助　公助

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 災害は地球規模で起こっている。世界で発生した自然災害の 8 割がアジア諸国で起こっており、そのうちの 2 割は、日本で発生している。観光立国を目指す日本において外国人旅行者は年々急増している。災害多発国の一つである日本で災害に巻き込まれている旅行者が存在しているが表面化されていなかった。最近起こった様々な日本の災害時に巻き込まれ、被災している外国人旅行者が存在した。

(2) 特に、外国人旅行者は災害に対して脆弱な状況下におかれており、旅行者という特性から、生活基盤を日本に持たず、旅行に必要な最小限の生活用品しか携帯していないことにあわせて、災害発生時に旅行者を支援する地域の社会資源が少なく無防備な状況下におかれやすく、生命や健康、生活の安全性への被害のリスクが高まることが考えられた。さらに、外国人旅行者は異文化、多言語を母国語としているという背景から災害時の情報伝達や支援者とのコミュニケーション等、難しい課題を抱えていた。

(3) 外国人旅行者は、災害時要支援者として位置づけられているが外国人旅行者への災害時看護支援に関する研究は見られず、災害看護の分野においても新たな研究課題であった。近い将来起こるとされている東南海トラフ地震や、活火山の噴火、そして、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが開催されることや世界遺産登録の増加によってさらに外国人旅行者の増加が予測され、これらを見据えた災害への備えと具体的な支援対策は、重要な課題となっていた。

２．研究の目的

災害看護支援の視点から、災害時要支援者と位置づけられている日本を訪れる外国人旅行者を対象として災害発生時にどのような災害看護支援活動が必要とされているのか調査を通して実態を明らかにし、その調査分析結果を基に外国人旅行者に対する災害時看護支援活動モデルを構築することを目的とした。

３．研究の方法

(1) 外国人旅行者に関する災害時（看護）支援に関する現状が明らかにされていなかった為、災害（看護）に関連する文献レビューと行政（東京都、姫路市、神戸市）に対して実態把握を行った。

(2) 災害関連の文献レビューや行政の外国人旅行者に対する支援の実態についての基礎データを基に、宿泊施設の外国人旅行者への災害への備え意識、行動に関するアンケート調査票を作成し、外国人旅行者の増加が予想される東京都と国際都市である神戸市、世界遺産のある中核都市である姫路市で実施した。

(3) 外国人 旅行者の災害への意識、備え対策に関してインタビュー調査による実態調査を行った。

(4) 外国人旅行さに対する行政や宿泊施設の災害対応、外国人旅行者からのインタビュー調査結果から災害看護支援活動に関連する要素を抽出し、看護支援活動モデルを構築した。

４．研究成果

(1) 本研究は、災害看護支援にむけて考究し、外国人旅行者の災害リスク、外国人旅行者の特性・災害へのニーズ、そして、看護専門職としての看護支援及び、連携機関との自助、共助、公助として災害サイクルに即してモデル構築化を生み出すことができた（図１）。

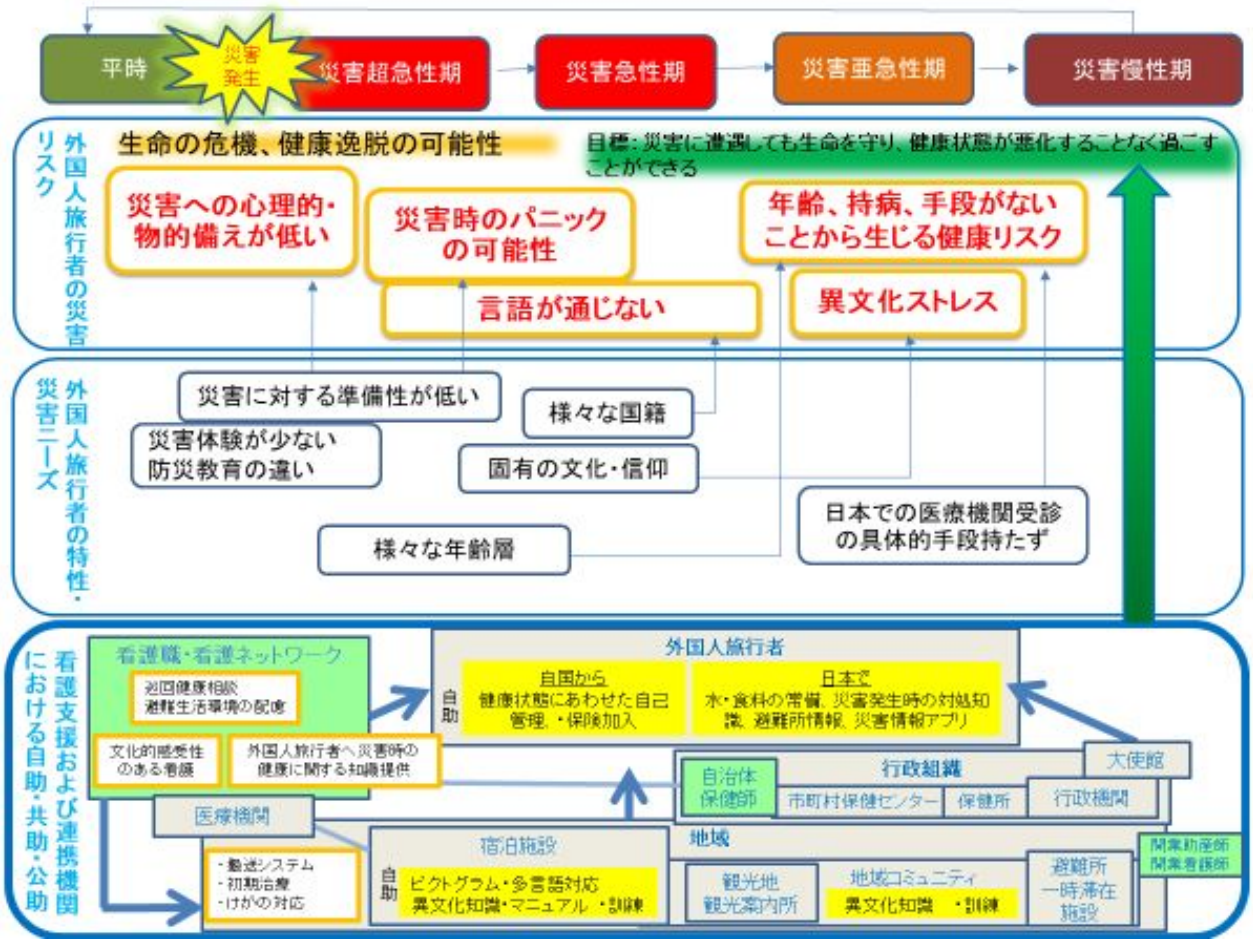

図１　外国人旅行者に対する災害時における看護支援活動モデル

① 看護支援モデルとして、災害時における外国人旅行者の生命の危機・健康状態が逸脱する可能性を示すことが出来た。

② 災害リスクが生じる要因として、外国人旅行者の特性・災害ニーズを明らかにすることが出来た。

③ さらに、リスクや要因に対する看護支援及び関係機関との連携を自助・共助・公助の側面から示した。看護支援は、外国人の自助を高め、外国人旅行者を取り巻く関連機関の共助および公助の側面から看護職として必要な支援内容を表現し、災害発生時だけでなく平時や災害慢性期（復興期）も見据えた支援を示す構成内容まで明らかにした。

④ 日本で活動を行う看護職が、どのような機関や立場で看護活動をしているかを踏まえ、病院等の医療機関で働く看護職だけでなく、地域コミュニティの中で活動する看護専門職や医療機関だけではなく、災害に遭遇した外国人旅行者や彼らを受け入れる宿泊施設や地域コミュニティとも連携することの重要性を明らかにできた。

⑤ 外国人言葉が通じないことや固有の文化が脅かされやすい状況に直面することで災害時にパニック状態に陥りやすいことも課題であることが明らかとなり、そして、健康に関しては、様々な年齢層の外国人旅行者が訪日している現状から、年齢に応じた健康リスクが潜在し、慢性疾患などの持病を持っている人もいる可能性がある。被災による健康被害に関する知識が不足していることや、医療機関の利用に関する情報が十分でないことの課題への取り組みが明らかになった。被災をした場合の健康を守るための行動に困難が生じることが予測された。

⑥ 外国人旅行者は、食事やジェンダー、信仰などにおいても固有の文化を持っていたことから、災害時においても外国人旅行者の文化的背景を理解して、支援を実施する必要性が認められ、健康への被害を最小にするための支援の必要性が明らかになった。

(2) 文化と健康を関連付けて理解できる看護職が地域コミュニティとも平時から健康を保つことができる環境について話し合う関係を持つことで、災害に強い地域づくりに貢献し、地域全体 で外国人旅行者への支援ができる体制を築く一端を担う可能性を考えることが出来た。そのためには看護職自身も文化的感受性を高め、多様な文化的背景を持つ外国人へのケア能力の習得が重要であることを示すことが出来た。

(3) 外国人旅行者に関する災害への備えは、地球規模で考え取り組んでいくことが求められることから、今後、地球規模でこれらの課題に取り組みを進めていくステップとして本研究の成果は貢献できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 4 件）

① 安達和美、 宮本純子、巽夕起、 田村康子、 溝畑智子、 山田英子、 相羽利昭、
東京都と兵庫県における宿泊施設の外国人旅行者を対象にした災害への「備え」の現状、第 37 回日本看護科学学会学術集会、 仙台，2017 年 12 月 16 日-17 日

② Kazumi Adachi, Yasuko Tamura, Junko Miyamoto, Yuki Tatsumi, Toshiaki Aiba, Eiko Yamada, Satoko Mizohata, Disaster preparedness needs of accommodation facilities for foreign tourists in Japan, The 5th World Society of Disaster Nursing Conference, Bremen (Germany), 18th -19th Oct, 2018

③ Kazumi Adachi, Yuki Tatusmi, Junko Miyamoto, Satoko Mizohata, Yasuko Tamura, Eiko Yamada, Toshiaki Aiba, The study of disaster preparation for foreign tourists at Japanese accommodation, The 5th World Society of Disaster Nursing Conference, Bremen (Germany), 18th -19th Oct, 2018

④ 安達和美、宮本純子、溝畑智子、田村康子、相羽利昭、巽夕起、山田英子、日本を訪問する外国人旅行者の災害への備えに関する研究日本看護科学学会学術集会、松山、2018 年 12 月 15 日-16 日

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年：
国内外の別：

〔その他〕
・安達和美、田村康子、巽 夕起、宮本純子、相羽利昭、山田英子、溝畑智子、外国人旅行者を対象にした災害発生時における看護支援活動モデルの構築 成果報告書、2019、81

６．研究組織

(1) 研究代表者
安達　和美（ADACHI, Kazumi）
姫路大学・看護学部・特任教授
研究者番号：70280104

(2) 研究分担者
田村　康子（TAMURA, Yasuko）
神戸女子大学・看護学部・准教授
研究者番号：80326305

巽　夕起（TATSUMI, Yuki）
大和大学・看護学部・講師
研究者番号：30749437

相羽　利昭（AIBA, Toshiaki）
東京純心大学・看護学部・講師
研究者番号：80340115

山田　英子(YAMADA, Eiko)
東京医療保健大学・看護学部・講師
研究者番号：80773324

溝畑　智子（MIZOHATA, Satoko）
神戸女子大学・看護学部・講師
研究者番号：80724434

(3) 研究協力者
宮本　純子(MIYAMOTO, Junko)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。